

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和元年10月3日（木） 11時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・高校生フェスティバルについて（発表）

質疑事項

- ・次期三重県教育ビジョン（仮称）中間案について
- ・県立高等学校入学選抜試験願書の性別記入欄廃止について
- ・県立学校施設に係る長寿命化計画について

発表項目

私の方からは高校生フェスティバルについて、発表させていただきます。

10月25日（金）から27日（日）まで、三重県総合文化センターにおいて、「令和元年度高校生フェスティバル」を開催いたします。高校生フェスティバルは、各種イベントが開催されて、県内の83校、のべ約3,000人の生徒が日頃の成果を発表する場があります。本県の高校生が参加するイベントでは最大の規模となりますので、発表する生徒もこの日のために練習や準備を重ねてきていますので、大変楽しみにしております。

まず、「みえ高文祭」です。これは、本年度節目となる40回目を迎えまして、「彩れ！～私達が描く新時代～」という大会テーマで実施します。詳しくはチラシがございますのでそれを参考にいただきたいと思います。

次に、「産業教育フェア」です。これは、今回ちょっと特徴的なことがございまして、農業学科の生徒が生産した農産物の販売は、毎年、大好評をいただいております。今年度は、グローバルGAPの認証を取得した明野高校の米（結びの神）や、アジアGAPの認証を取得した四日市農芸高校のマコモを使ったレトルトカレー、相可高校の柿についても販売を行う予定でございます。これらはGAP認証を契機に様々な取組を進めてきた農産物であり、明野高校の米（結びの神）は8月31日から9月16日に三重テラスで開催をされました「GAP食材フェア」でも販売し、レストランで提供されたものですので、是非この機会にご購入いただければと思います。それから、工業高校生が制作したロボットを使用して行うロボットアメリカンフットボール大会やファッションショー等も行います。

次に、「定時制通信制生徒生活体験発表大会」です。これは、学校生活を通して、感じ学んだ貴重な体験を発表するものですが、毎年生徒たちから感動と逆に励ましをいただく内容ばかりでございますので、是非みなさんにお聞きいただければと思います。

そして「高校紹介ひろば」は、県内の公立高校、私立高校、高等専門学校の特徴等の展示を行うとともに、県立高校進学のための質問コーナーも設置いたします。中学生や保護者の方には、是非この機会をご利用いただいて、各学校の情報を集めていただきたいと思います。

それから、その他に記載しましたが、みえ高文祭の生徒実行委員会のメンバーが、10月12日に津まつりにおいて、高文祭の広報や東日本大震災、熊本地震災害の募金活動も行いますので、その様子については取材をいただければという風に思っております。

高校生フェスティバルは、事前申し込み等の必要はございませんので、当日、本当にたくさんの方にご来場いただきたいという風に思っております。以上でございます。

発表項目に関する質疑

○「令和元年度高校生フェスティバル」について（発表）

（質）フェスティバルは、一般の方の傍聴は可能ですか。

（答）はい。全て、その場に来ていただいて傍聴可能です。

（質）今回で40回目ですけども、今年は特に例年と異なるものや、新しい取組はありますか。

（答）高文祭については、毎年続けている内容でございまして、チラシをご覧いただいたら分かると思いますが、特に今年はというものはございません。全体のフェスティバルの中では、先ほど発表しましたが産業教育フェアのところではGAPを出すのが、特徴的な点という風に思っております。

（質）産業教育フェアは、何校、何人の生徒が参加するのですか。

（答 高校教育課）昨年度は32校、702名参加しています。今年度は、学校数が32校、参加する生徒の数は今の予定では700名程となっております。昨年と概ね同じ規模で実施したいと思っております。

（質）同じく、生徒生活体験発表大会は何校、何人ですか。

（答 高校教育課）12校、539名の予定です。

その他の項目に関する質疑

○次期三重県教育ビジョン（仮称）中間案について

（質）教育ビジョンの中間案は、本日の定例会で初めて発表されるものなのでしょうか。

（答）中間案については、9月27日の教育改革推進会議において出た内容です。それと同じものを、本日の定例会でご報告させていただいたという形です。

（質）本日の定例会で、何か委員から意見はありましたか。

（答）先ず一つ目は、全ての数値について現時点ではいれていませんが、どういう意味をもってその数値目標を設定したか。それから、実現の可能性について、きちんとみながらもう一度チェックをする必要がありますねというご意見をいただきました。それから、もう一つは目標の設定をみると、定量的なものばかりなんですけども、教育はやはり定量で図ることが難しいので、定性的なものがあっても良いし、むしろそれを強調してほしいという意見がありました。それからもう一つ、スケジュールの中で、キッズモニターをするとなっておりますので、どういう風にするかのご質問がありました。その3点です。

（質）キッズモニターは資料のどこにありますか。

（答）別紙の4ページになります。

（質）今回の教育ビジョンから、それを盛り込むのですか。

(答) 前回の教育ビジョンではパブリックコメントだけで、子どもたちの意見を聴くという形はなかった、課長どうです。

(答 教育政策課) なかったです。

(答) 今回初めて子どもたちから意見もらおうと。パブリックコメントは別に行います。

(質) 11月からですか。

(答) はい。

(質) それに対して、どのような意見が出ましたか。

(答) キッズモニターはどのような形ですのかというご質問でした。

(質) 質問だけでしたか。

(答) はい。意見ではなかったです。

○県立高等学校入学選抜試験願書の性別記入欄廃止について

(質) 来年度の高校入試の願書について、性別欄を無くしたということなんですけども、どのような背景があり、どのような狙いがありますか。

(答) 性別欄については、29年度に入学する子どもたちまでは、男女選択にしていました。30年度、31年度については、記述式で空欄の中に、男、女、あるいは空欄という形にしました。令和2年度の選抜、来年度に入学してくる子どもたちについては、性別欄という欄そのものを廃止いたしました。選抜については、性別は全く関係が無く、性別欄があることにより、書き辛さを感じる子どもが一人でもいるのであれば、その在り方を見直す必要があるということで、子どもたちが安心して受検に臨めるように、廃止することにしました。

(質) 性別を書かせることでなにか苦痛を感じる子どもがいるということですか…。

(答) 1人でもいれば、ということです。もう一つは、世界的な流れでもあり、日本の流れでもあり、昨年度も多文化共生のところから、「多様な性の在り方を知り、行動するための職員ガイドライン」というものも出ていて、性別についてこのように県は先行して行うということも書いているので、そのような流れもふまえて、このようにさせていただきました。

(質) 入学後の男女比などは、それで大丈夫なのか。

(答) 実際には、トレーニングシャツなどのウェアや更衣室、体育の授業もございますので、性別に関する情報については、中学校からの調査書の中で性別欄を設けて、事務的な形で教えていただくことにする予定にはしております。補足がありましたら、なにか。

(答 高校教育課) 受検者自らが記入するものには、性別欄を無くしましたが、学校が発行する活動の記録等を書いてある調査書には性別欄を記入式にして残すこととしましたので、それをもって学校は把握ができると思います。学校の施設の準備、授業編成等で男女比がある程度必要ではあるので、その欄だけは残させていただきました。

(質) それは、ほぼ男女比が同数になるように調整しているわけではないのですか。

(答 高校教育課) 学校それぞれの特色に応じて志願者が志願する学校で、その結果として男女比は決まってくることであるので。

(答) 選抜については、男女は全く関係ないので、今まで慣例的にという形で当時は男女を選ぶようになっていたし、それから次に書かせるようにした。本当に全く関係ないので、欄そのもの廃止しました。

(質) 欄を廃止することで目指していることは何ですか。

(答) 性別欄を無くすことで、心の負担を感じずに子どもたち全員が安心して受検に臨んでいただきたいと願っています。

(質) 先生が記入する調査書には先生が性別を書く欄が残るということだったんですけど、先生が記入するときに、その子どもが性的マイノリティの子だったときに、どのように記入するのか先生の立場からすると難しいと思うが、そこあたりの考え方、生徒に確認したうえでその子の性別を書くのか、どうするのか教えてください。

(答 高校教育課) 中学校側も、そのようなことを把握している場合には、それまでに保護者、生徒等と関わりをもってきておりますので、それをふまえて書かれることと思います。欄であり、選択式ではないので、そこを中学校側がどのように書かれるのかは、中学校側が十分に受検者、もしくは保護者と話ながら書くことになるかと思えます。

(質) ある意味、先生が子どもに確認するのも負担かと思うが、子どもにとってもですが、そこは県教委からすると、確認したほうが良いものとして通知していくということですか。

(答) 私たちから中学校側に言っている説明としましては、もし中学校側が確認しづらい場合は、その部分は空欄にしても構わないとしています。

○県立学校施設に係る長寿命化計画について

(質) 長寿命化計画なんですが、どのようなものか教えてください。

(答 学校経理・施設課) 長寿命化計画については、国が平成25年に全国のインフラ長寿命化基本計画というものを作っておりまして、それを受けて本県でも総務部が平成27年に三重公共施設等共同管理基本方針というものを策定いたしまして、その個別の施設計画、学校施設の長寿命化計画として今回、策定するものでございます。

(質) 今後どのように作られていくのか。これ中間案ですよ。

(答) 今年度中には完成させたいと考えています。

(質) ということは、具体的に聞きますが、トイレなんですけども、これは導入していきたいという、いつまでにと具体的な目標を決められているのですか。もっと言うと、今何%くらいが洋式化されているのか、教えてください。

(答 学校経理・施設課) 今後の具体的な内容については、現在実施計画を策定しており、そちらの方で検討していきたいと考えております。実施計画も今年度中に策定する予定です。トイレの洋式化率ですが、平成31年4月1日現在で、高等学校が28.4%、特別支援学校が78.5%、合計しますと35.0%です。

(質) 全国の数字はありますか。

(答 学校経理・施設課) 全国調査は近年実施されておりません。

(質) 28.4という数字はどうなのでしょう。受け止めとしては低いのか高いのか。

(答 学校経理・施設課) 全国調査がされていませんので分かりませんが、平成28年に文科省が小中学校の状況を調査しておりまして、その調査結果では洋式化率は43.3%です。

(質) 今の43.3という数字はどういったものですか。

(答 学校経理・施設課) 公立の小中学校の洋式化率です。平成28年の全国の調査結果です。

(質) 28.4というのは県立高校の数字。

(答 学校経理・施設課) はい。

(質) 小中ではなく、単純に高校と比べられる数字はないんですか。

(答 学校経理・施設課) 近年は文科省の調査はございません。

(質) 今言われた数値目標みたいなものが、実施計画で示されるということですか。

(答 学校経理・施設課) 数値目標といいますか、何年度にどの学校を改修していくという形の計画です。

(質) 数値目標は出さないということですか。

(答 学校経理・施設課) 結果的には数値は出ますけども、目標としては出す予定はございません。

(質) いつまでに何%。いつまでに100%。100%を目指すのですか。

(答 学校経理・施設課) それがいつになるかは、…

(質) それじゃあ100%を目指すのですか。

(質) そこを目指すか、目指さないかでだいぶ違うんですよ。つまり100を目指すのか、それとも8割くらいを目指すかではだいぶ違うじゃないですか。

(答) 実施計画というのは、財政的にとといいますか、そこが絡んでくることでもありますので。本当は、全部、男女も含めて、生活スタイルからしたら洋式化なんです。そうはいかないので、それを実施計画にどう書いていくかということなんですけど、学校に1系統ぐらいずつは目指すということであれば、各学校ちゃんと使えるようになるということ、そういう意味での100%を目指すということになります。

(質) 生徒はどうしているんですか。28.4%の洋式トイレで。女子トイレも28.4%なん。

(答 学校経理・施設課) 男女別には調査していません。全体で28.4%です。

(質) まあいいけど、今の若い子らは和式もちゃんとできるん。

(答) そうなんです。和式しかないといいますか、和式がメインというのは否定できないので。

(質) 和式でいいやってことで、使ってるということやね。

(答) 若い子も使用しています。

(質) よく問題になっているのが、和式ができない子が家に帰ってするという問題もあったけど、それはどうなん。

(答) そこまではうちは…、聞いていますか。

(答 学校経理・施設課) そこまでは聞いていないんですが、そういったことがないようできるだけ洋式化をしていきたいと考えています。

(質) 教育長のお考えとして、100%を目指したいのかどうか。そこらへんはどうなんですか。財政的な話は別にして。

(答) 財政的な話を別にしたら、やっぱり目指したいです。でも、それは難しいので、各学校に1系統ずつぐらいは必ず整備したい。

(質) 1系統というのはどういう意味。

(答 学校経理・施設課) 1系統というのは、例えば3階建ての校舎でございましたら、1階2階3階それぞれトイレ配管が繋がっていますので、その配管を1系統、1階から3階までのトイレ全てを1系統といたします。

(質) 和式と洋式で配管が違うの。能力とか何かが。

(答 学校経理・施設課) トイレ自体の配管は、洋式と和式で同じです。

(質) なんで、系統でせなあかんの。

(答 学校経理・施設課) 配管自体が繋がっておりますので。

(質) 分からない。和式、洋式、和式ではあかんの。

(答 学校経理・施設課) 配管は、1階から3階まで繋がっていますので。

(答) やっぱりワンフロアに。

(質) 全部は難しいけど。

(答) そうなんです。例えば、ある高校だけ全部が洋式化して、ある高校はそうでない、というのでは、ちょっとそれはということなので。具体的にどう書くのかは別にして、1階2階3階あればフロアごとに洋式があるのが、現実的かなとは思っています。

(質) そうすると、ないところが今何校かあるということですよ。校数については、また後で聞きます。

(質) 実際100%にしたいときに、いくらくらい財政的にお金がかかるのか。

(答) それは今算定中です。洋式のトイレでも、何にもないのと、ウォームとか、ウォッシュレットとか色々あると思いますので。それによっても金額が違うと思うので、本当はどうするのが一番いいのかということ、今考えています。

(質) 長寿命シャワートイレとか。

(答) 全部100%にしたいという、先ほどの思いでいえば、全部ウォッシュレットで入れてあげたいです。

(質) とにかく今年度中に目標値みたいなものは出るんですか。

(答) 目標値までは。何回も言いますが財政的な話をおいておいてとはいかないので、女子生徒が多いところから始めるとか、そこをどうやっていくかを考えているので。数値というのは書かないのではないかなと。結果的にどういう風になるかについては書けるかもしれないですけど。100%を目指すということは書けたとしても、何年度にどれだけというのは、財政的なものを見ないといけないので、今の段階ではお答えできないというのが事実です。

(質) とにかく計画的に洋式化を進めていく方針であることは間違いない。

(答) そうです。100%を目指します。それを何年かかってというのはちょっと。

(質) お尻は決めていない。

(答) はい。

(質) 35%という数字自体はどう受け止めていますか。

(答) 他県と並べる数字があるないにかかわらず、自分が手洗いに入ったときにそのパーセンテージしかなくて、生活で和式を使ったことがなければ低いと思うので、私は低いと思います。

(質) 実際そういう声が寄せられていると思うんですけど。もう少し何とかしてほしいとか、現場ではそういう声はないの。

(答 学校経理・施設課) 学校からは、トイレ改修の要望があります。

(質) はよ変えてくれという。

(答 学校経理・施設課) はい。

(答) 各学校でいろいろ、雨漏りがするとか、グラウンドの整備とか、要望があがってきますので、もちろん子どもたちの声を聴いたうえで、ここの課に要望があがってきますので、そういう意味合いでは必ず聞いている声だと思っています。

(質) 本案はいつごろできますか。

(答) 3月です。年度いっぱいかかります。

(質) これはパブコメとかするんですか。

(答) これはパブコメはやりません。

(質) あとは内部調整ということですね。

(答) はい。

(質) それで新年度から。

(答) 新年度から、どの学校をとこのを実施計画に書くかは別にして、かかっています。

(質) 県教育委員会として、県立学校の洋式化についてはこれまで計画的ではなかったのだけど、来年度から計画的に行うという方針ということでしょうか。

(答) そうです。長寿命化計画という中に、位置付けるということです。

(質) トイレの大元の長寿命化計画ですけど、国はどういっているのですか。建て替えるより安い方法を考えてということですか。県教委としても、建て替えの計算と、補修の計算をして、補修の方が安いから補修をしていくということなんですか。

(答 学校経理・施設課) いわゆる長寿命化計画というものの自体の、全国の他の公共施設もそうですけど、予算の平準化を目的としておりますので、できるだけ長期に施設を使っていくという考えです。

(答) 平準化といたしましたけど、国全体が長寿命化という風になって、県でも基本方針をだして、文科省からもそうあるので、財政的に豊かで何もかも建て替えたらいいのですが、老朽化しているというのは事実ですので、財政的に平準化するという意味合いで40年のところを80年に延ばすというかたちでやっています。国の方針と同じです。

(質) 40年を80年に延ばす。

(答) 40年を80年というのは書いてある…

(答 学校経理・施設課) 平均的なサイクルといたしまして、全国的な平均でだいたい40年程度で建て替えを行っていたものを80年まで延ばそうというのが標準的なスタイルとなっています。

(質) 県教委もそれに準じると。

(答 学校経理・施設課) はい。

(質) 40年間というのは。

(答) 大体40年という感じで。

(質) どちらが安いかという。その計画に則って80年という。

(答 学校経理・施設課) 耐用年数として80年を設定しております。

(答) 本冊の9ページの上あたりに、80年という言葉、40年という言葉があります。

(質) その前提として、耐震化は100%達成している。

(答 学校経理・施設課) 100%達成しています。

(質) それ以外の部分では。

(答 学校経理・施設課) 外壁でありますとか、屋根・屋上とかそういったところを長寿命化の改修をしていくこととしています。

(質) 冷房は。

(答) 冷房は大丈夫です。県立学校については、今年度設計をして、来年度夏には全部入るといことです。

(質) 来年度に100%を達成する。

(答) 来年の夏には命にかかわるような問題は出ないということで進めております。

(以上) 12時00分 終了